

山梨県立中央病院胃食道外科の大森隼人医師(36)は、山梨県内で3人しかいない胃の内視鏡外科学会技術認定医の一人。今年4月に同病院に着任し、「学んできた

支援手術の第一人者寺島雅典医師の下で学んできた。県立中央病院では、上司の医師についてロボット支援手術のサポートに当たつている。

同病院は昨年4月から、手術支援ロボット「ダヴィンチXi」に

7月31日現在で10件と昨年度の半数近い件数をすでに実施している。数少ない件数を重ねることに手術時間は短縮。当初は6~7時間ほどかかるが、今は4時間前後でできることになってきたという。今後、大森医師が執刀する機会も増えていたが、今は4時間前後でできることになってきたという。今後、

手術支援ロボで正確執刀
主導になりつつある。大森医師によると、腹腔鏡手術は開腹手術に比べて傷口が小さく、出血量や術後の痛みが少なく回復が早い。医師にとっても、患部を映像で拡大して見ることができるために、より丁寧に確実に執刀できるメリットもあるという。

同病院では今まで早期

がんのみで実施してきた

がんの難しい進行がんへの適応も検討。現在は

やまなし 医療最前线 令和を担う 県立中央病院から

〈182〉

胃食道外科・大森隼人医師

ことを山梨の患者さんのために役立たい」と話す。

専門は胃がんの外科治療。静岡がんセンターで5年間、ロボット

による胃がんの手術を始めた。人の手よりも可動域が広く、繊細な動きができるのが特徴で、昨年度は22件実施。本年度に入つてからは週1回近いペースで執刀していく。

かつて開腹手術を中心だった胃がん手術は、現在は腹腔鏡手術が

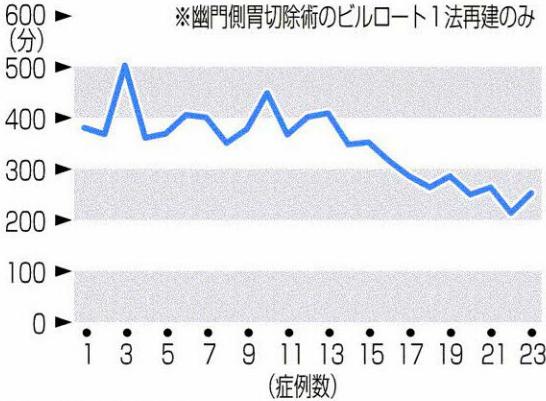
手術を7、8割まで拡大することを目指している。「患者さんの理解を得た上で安全性を確保しながら進めたい」

甲府市出身。子どもの頃は同



山梨県立中央病院 胃がんロボット支援手術の手術時間

※幽門側胃切除術のビルロート1法再建のみ



おおもり・はやとさん 2009年富山大医学部卒。相沢病院、静岡がんセンターを経て19年4月から現職。内視鏡外科学会技術認定医、消化器外科専門医、ロボット外科専門医、消化器病専門医、外科専門医。甲府市出身。36歳。趣味はトレーリラン、ロードバイクなど。

静岡では最先端の技術に触れたが、執刀する機会は少なかつた。「外科医なので手術が好き。学んできたことを患者さんのために実践したい」というのが今の思いです」